

お 名 前	性 別	卒 業 年	小 学 校	現 住 所
安形 <small>ひろかず</small> 博一	男 性	昭 3 3 年	宇理小	物故者

「 田 植 え 」

昭和 3 0 年発行文集「つどい」

新城町南部国語研究会発行より転載

今日は朝から上天気だった。

「おばあちゃん、ぼくたち今日から田うえ休みだよ。」と言うとおばあちゃんは、「それはうれしいなあ。今日から家も田植えが始まるころだ。みんなに手伝ってもらってたくさん植えるだなあ。」と言われた。

急いで朝ごはんを食べて、前の田んぼへ、てっちゃんをつれて行った。ぼくやお兄さんはあぜつちをこねた。初めはおもしろかったが、だんだんくたびれてきた。そのうちに西のあっちゃが、牛をつれて来てしろかきをしてくれた。おかあちゃんがお茶やパンを持ってきてくれたので、みんなで田んぼのあぜにこしをおろして休んだ。

牛もうれしそうにそばで休んでいた。いよいよ田植えだ。ぼくは生まれて初めて田植えをするので少しも分からない。お母さんのそばで教えてもらおう。どうもよがんでしかたがない。おかあさんが、

「これはおもちのなえだよ。博ちゃんも自分が食べるぐらい植えなさいね。」

と言ったので、ぼくはいっしょうけんめい植えた。おばあちゃんが、

「曲がり万石というから、博ちゃんの植えたところはたくさんお米がとれるよ。」

と言ったので、みんな大わらいした。

だんだん上手に植えるようになったのでうれしくなった。夕日がしずんだので家へ帰った。そのばん、お母さんがごちそうをつくってくれた。